

多田満朗社長に聞く

「GONOW」で灯油の配送を効率化

スマートセンサーとシステムを提供

— 灯油スマートセンサー

北国の冬の生活に欠かせない灯油の配送は、社会的な人手不足による配送スタッフの不足などで、そのインフラの維持が社会課題となっている。これまで

「GONOW」の開発の経緯を教えてください

現地を確認していたホームタンクの残量を、灯油スマートセンサーと配送管理システム「GONOW」を提供することで、配送の効率化による社会課題の解決に取り組むゼロスペック。多田満朗社長CEOに、その開発経緯や導入の効果などについて聞いた。

私は生まれも育ちも札幌で、灯油は私たちの生活に欠かせない生活インフラである一方で、雪の中をかき分けて配送する苦労を目の当たりにしていました。

配送のことを調べると、石油販売業者の皆さまは、ホームタンクの残量が分からずに給油に行かれていました。雪の中、重いホースをタンクまで引っ張り、油のにおいが付いたり配送員の負担も大きく、ローリ

ーが雪で狭まった道を塞いでしまい、近隣の方にご迷惑をおかけすることや、そもそも停車する場所がないこともあります。

配送業の中でも厳しい労働環境のなかで、スタッフがより柔軟に働けるようにしなければ離職してしまいます。また、スタッフの方は強い使命感を持って

いる人も多く、早朝から遅くまで平日・休日の区別なく働いている環境を変えることに寄与したいと思っていました。

海外では公園などのゴミ箱のゴミを定期的に回収していたところ、ゴミ箱にセンサーを付けて

て、満杯になってから回収することで、効率的になったというケースがあります。

このようなデジタル技術を活用した時代が来なければ、灯油の配送は業者にもスタッフにも負担が大きいままだと考え、自社でセンサーを開発しました。

灯油の在庫を遠隔で確認し、定期配送を年7〜8回しているところを半分にすることにチャレンジしています。

— 導入の効果について

北海道を含めて37都道府県のお客さまに導入していただいています。少子高齢化などの人手

不足で配送員が足りなくなってきたり、配送を30%程度削減できています。

特に地方はスタッフが元々足りなかったりで、配達回数を減らすことでゆとりを持ってシフトを組むことができるようになりました。これまでは在庫が分からなかったため、正月などに休みを取れませんでした。可視化することで休日に休みを取ることができるようになりました。配送回数の削減で収益性が向上したことに加えて、より良いサービスを提供できるようになったと評価をいただいています。

——大手と小手のどちらの業者によりお勧めと言えるのでしょうか

大手のお客さまにはコストの半減や、配送の効率化によって生まれた人的資源などを、マーケットの拡大にご利用いただいています。中小のお客さまは、比較的小さいマーケットでビジ

ネスをされており、その維持・継続のためにご利用いただいています。シーズン合計で5000回の配送を2人で回していたお客さまが、配送を最適化すると、スタッフが1人欠けてもこれまでの配送を維持することができます。おかげさまで導入していただいている業者さまも中小企業の皆さまが多く、規模にかかわらずすべての石油販売業者さまにお勧めです。

——今後の展開についてお聞かせください

おかげさまで「Go Now」の認知も広まっており、センサーも新しくしたことで、ある程度ご満足いただけるサービスを提供する足場がさらに整ったものと認識しています。今冬以降、灯油配送に広く使っていただけのような取り組んでいきたいと思っています。

灯油以外の石油製品やアドブルーなどは、灯油の配送と同様に在庫の確認に課題を抱えてい

ると聞いています。灯油の他にも多くセンサーを提供し、データを可視化することで、高齢化

や人口が減っていくなかで労働生産性の向上に寄与していければと思っています。



札幌出身の多田社長。配送の負担を軽減したいと語る